

ふくい県民総合文化祭参加事業

邦楽

vol.19

ふれあい
フェスティバル

日時：令和8年10月12日(月・祝) 開場 12:30／開演 13:00

会場：ハーモニーホールふくい(大ホール)

主催：邦楽ふれあいフェスティバル運営委員会

共催：(公財)げんでんふれあい福井財団

後援：ふ福井新聞社

お問い合わせ：携帯 090-3291-0669(水井)

● プログラム

開演 13:00

- | | |
|----------------|----------------|
| ちゅ ちゅ
1 宙々 | 7 花紅葉 |
| 2 星空への想い | 8 海鳥の詩 |
| 3 千代の萩 | 9 六段の調 |
| 4 風来壮烈 | 10 竹の山から |
| 5 尺八二重奏曲 瀬戸の舟唄 | 11 北海民謡調 |
| 6 都踊 | 12 秋に寄せる三つの幻想曲 |

終演 16:00 (予)

ごあいさつ

本日は「邦楽ふれあいフェスティバル」にご来場いただきありがとうございます。

このフェスティバルは、2005年、本県各地で開催された国民文化祭を契機として、福井県が企画した「ふくい県民総合文化祭」の一環として、邦楽の普及啓発を行うことを目的として毎年のように開催しているところです。関係各位のご協力により、おかげさまで、19回目の開催を迎えることができましたこと感謝申し上げます。

さて、近年、ICT (Information and Communication Technology、和訳；情報通信技術) 技術やこれらを活用した機器の発展により、社会環境や産業構造が、また、文化活動や情報発信手段が、多様化しています。一方、昨年、伝統文化を題材とした邦画がヒットするなど、伝統文化にも注目が集まっているところです。邦楽というと、何方かといえば伝統的な分野で、難しい、あるいは古臭い音楽と思われがちですが、このフェスティバルでは、邦楽を普段聞かれていない皆さんにも分かりやすい昭和初期から現代に作られた音楽の演奏となっております。本日の演奏を機会として、是非邦楽の世界に興味を持っていただくとともに、演奏者一同、皆様の邦楽への参加をお待ち申し上げます。

結びに、本演奏会の開催にご協力いただいた関係各位、及び出演いただいた皆様に御礼申し上げます。

令和8年10月12日

邦楽ふれあいフェスティバル運営委員会

1 宇宙々

沢井 比河流 作曲

沢井箏曲院 福井研究室

箏	I	西村真琴	佐々木京美	小林千恵美
		酒井みゆき	田中小枝子	後藤佳奈
		田村文	酒井裕美子	小林幸恵
箏	II	齋藤優仁	中村羽弥香	松本知美
		坂井史子	飛山美智子	藤井千影
		後藤礼奈	島寄由衣	島寄佐知恵

第1楽章 宇宙の海

第2楽章 宇宙の光

第3楽章 宇宙の風

人にはそれぞれの宇宙があると思う。が、しかし。

海に生かされ、光を身に纏い、風に身をまかせ、存在しつづける使命は誰でも同じである。宙々はたゆみない流々。（作曲者）

2 星空への想い

菊 重 精 峰 作 曲

箏曲宮城社 胡桃の会

箏	石 田 久美子	笈 田 悦 子	勝 田 葉 子
	小 西 慶	斉 藤 ちず代	野々市 千 聖
	広 部 文 枝	森 長 淑 子	渡 邊 昌 美

十 七 絃 山 田 園 恵 樋 爪 優 子

尺 八 林 楓 山

一章 シャイニング・スター (輝く星)

重々しく温かみのある十七絃のソロから静かに曲が始まり主題へ、途中箏ソロを経て主題に戻り二章へつながります。

二章 シューティング・スター (流れ星)

箏のソロから始まり、尺八が加わりながら満天の星を和声的短音階を用いて憂いを表現しつつ、最後はタンゴ風に締めくくっています。

3 千代の萩

水 川 寿 也 作 曲

正派邦楽会 雅抄会

三 味 線 宇 野 雅之抄

第 一 箏 徳 橋 雅久美 小 泉 雅鶯抄 加 藤 雅菖抄

第 二 箏 上 坂 雅久優 高 橋 雅梨抄 伊 藤 須雅子

第 三 箏 内 田 雅久円 富 田 都 悠

十 七 弦 菅 原 雅久松 由 川 雅実抄 小 辻 雅優祥

尺 八 水 井 推 山 斉 藤 翔鳳山 岩 崎 明 山

「千代」は仙台の旧名であり、「萩」は「センダイハギ」。

花言葉は、「才能、希望、誠実」で、各々が未来に向けて希望を持ち、その力を発揮できることへの願いが込められています。

ゆったりとした部分は仙台の歴史と自然を、尺八と三味線のソロは鎮魂を、早い部分は発展する未来をイメージしています。

4 風来壮烈

いぶくろ聖志 作曲

正派邦楽会 秀萌会

一	箏	藤澤雅秀花	岩堀雅秀琳	松村雅秀結
		眞田莉沙	海崎安友奈	堀口野乃加
二	箏	永田雅秀	村田都秀明	伊興洋子
		東田時子	梅澤有美子	中村朱里
三	箏	松村雅秀瑤	山田雅秀念	孫 婕 銘
		石田 瞳		
十七	弦	絹谷恒樹	眞田 萌	松村美玖

初代福山城主 水野勝成の人生を作曲者が箏の三重奏にまとめた楽曲。

若い時に奉公構を出され戦国の世を己の才覚で破天荒に生きた風来坊のような勝成の半生には勇猛果敢として語り継がれているいくつもの逸話が残っている。

そして、歳を経て福山城主となってからも優れた治世で名君と称えられていたにも関わらず、七十の齢を過ぎてからも戦場へと向かう壮烈な人生を曲の中で表現しようと試みている。

尺八二重奏曲

5 瀬戸の舟唄

河内杏山作曲

(公社)日本尺八連盟 福井県支部

指揮 忠澤 誇浮山

尺八一部 石山鼓山 猪井鈴嵩 大谷聚山
小倉元山 河合真隆 篠田真山
牧野治山

尺八二部 朝倉相一 宇佐美鹿山 小島煥山
小林杖山 坂上稱山 林楓山
西澤楓木

瀬戸の内海では昔から満月の晩は漁が出来ないので、漁師達が投網を繕ったり仲間と酒を酌み交わしたり、平穏なひとときを味わいます。

古来より変わらぬ海と共に生きる男達の姿と風光明媚な瀬戸の情景を尺八で表現しています。

6 都 踊

宮 城 道 雄 作 曲

箏曲宮城社 箏友会

箏 高 音 佐々木 敦 子 山 森 聡 子

箏 低 音 池 内 尚 子 朝比奈 佳恵子

三 絃 田 中 恵 子 小 山 牧 子

尺 八 林 楓 山 牧 野 治 山

京舞井上流三世八千代により演じられた都おどり。

豪華絢爛可憐な踊りの情景をうたった大和田建樹の詩に三絃の四部合奏として作曲。

その後箏高音・箏低音・三絃・尺八という合奏形式に改作された。曲冒頭では舞妓連の打ちならす摺鉦の音を描写している。

宮城の三曲合奏物の中でもこれほど華やかな曲は珍しい。

大正4年作曲

7 花紅葉

宮 城 道 雄 作 曲

福井県三曲協会

三	絃	池 内 尚 子	小 山 牧 子	後 藤 順 寿
		佐 藤 明 美	東 川 実 咲	細 川 順 子
箏		朝比奈 佳恵子	安 藤 由夏寿	五十嵐 雅 美
		中柴葉 紅 花	寶 田 房 子	山 森 聡 子
尺 八		猪 井 鈴 嵩	小 島 煥 山	坂 上 稱 山
		笹 原 武 山	篠 田 真 山	林 楓 山
		牧 野 治 山		

1927年 宮城道雄34才の時、中尾都山の委嘱で三曲合奏として作曲。

作詞は桜井女。春の桜、秋の紅葉と人も愛でるあざやかな景色を詠った歌詞を前唄と後唄に配し、その中間に手事を挿入した手事物形式の作品。

後唄「めずる日かずは」以下の紅葉が水に流される様を表現した箏の手は、特に美しく聴きどころともいえます。

8 海鳥の詩

江戸 信 吾 作 曲

アララギ楽苑

I 箏 勘 山 友 希 山 嵜 由 佳

II 箏 田 村 佳 子 北 村 知 子

十 七 弦 小 川 美 苗

三 絃 齋 藤 陽 子 坂 口 文 恵 上 坂 敦 子
中 垣 広 美 田 中 昌 則

尺 八 牧 野 治 山

2007年 第22回国民文化祭徳島にて演奏。

桂浜の海岸から見た静かで雄大な太平洋の風景、その中に打ち寄せる波、力強いカツオ漁の様子を盛り込み、一羽の海鳥がそれを眺めながら飛び続ける。ノリの良い民謡調の曲です。

9 六段の調

八 橋 検 校 作 曲

箏曲宮城社 季の音会

箏
(六段の調) 深 川 季 代 横 井 希 和 林 由香里
宇 野 真奈美 島 村 明 里

(雲井六段の調) 吉 田 有里佳 高 島 有 那 明 新 麻惟子

尺 八 平 田 尖 山 中 島 詠 輝

江戸時代の初期に作曲された箏の名曲「六段の調」と、その旋律を雲井調子に移した「雲井六段の調」との異なる調子が織りなす豊かな響きに、尺八の音色が重なり、古典ならではの趣と情緒を味わえる演奏です。

10 竹の山から

加羅古呂庵一泉 作 曲

都山流 推山会

尺八一部 水 井 推 山 山 田 推 修 富 田 翔 江

尺八二部 斉 藤 翔鳳山 上 坂 夏 山 山 本 翔 峰

尺八三部 岩 崎 明 山 岩 崎 推 蓮 前 田 推 心

竹は、冬の寒さにも緑を失わず、四季折々にその緑で目を潤してくれるとともに、竹材はさまざまに加工され、人々の暮らしを支えてきました。

里山にも竹林が広がり、田や畑に適さない土地でも筍や工芸品により、身近な植物として活用されてきました。

竹は、竹として美しいだけでなく、人間との関係によりかがやきを増してきたともいえるでしょう。

そのような竹の風景を「みどりの風」「光の落ち葉」「里の営」の三つの段で構成しました。

11 北海民謡調

宮 城 道 雄 作 曲

箏曲宮城社 典麗会

第一 箏 深 川 季 代 禿 信 子 三 浦 奈 緒 子

第二 箏 上 下 礼 子 伊 藤 眞 由 美 澤 田 ひ ろ 子

十 七 絃 高 村 美 穂

尺 八 屋 敷 詠 山

宮城道雄が北海道へ演奏旅行した折に「ソーラン節」「江差追分」を取り入れた曲を演奏し後に改作してまとめたものが、この北海民謡調です。

12 秋に寄せる三つの幻想曲 長 沢 勝 俊 作 曲

正派邦楽会 野沢社中

第一 箏 野 沢 雅 世

第二 箏 加 藤 雅 豊 酒 井 雅 美

十七 弦 荒 島 雅 彩

尺 八 牧 野 治 山

曲は三つの部分より出来ており題名がついていますが、これにこだわる必要はありません。長い伝統を持つ日本の楽器が、それぞれに所を得て生き生きとしたアンサンブルにより、日本の秋を うたいあげることができればと希い作曲したものです。

一 秋霖(しゅうりん)…秋のながあめ

二 野分(のわき)…… 秋のころ吹く強い風

三 黄落(こうらく)… 木の葉 または果実の黄ばんで落ちること

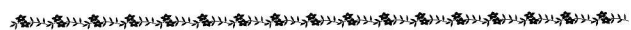
(今回は、一と三を演奏します)

邦楽ふれあいフェスティバル参加

団 体 名	代 表 者
沢井箏曲院 福井研究室	宮 本 真 子
箏曲 宮城社 胡桃の会	勝 田 葉 子
正派邦楽会 雅 抄 会	徳 橋 雅久美
正派邦楽会 秀 萌 会	永 田 雅 秀
(公社)日本尺八連盟 福井県支部	篠 田 真 山
箏曲 宮城社 箏 友 会	佐々木 敦 子
福 井 県 三 曲 協 会	林 楓 山
ア ラ ラ ギ 楽 苑	田 村 佳 子
箏曲 宮城社 季の音会	深 川 季 代
都 山 流 推 山 会	水 井 推 山
箏曲 宮城社 典 麗 会	上 下 礼 子
正派邦楽会 野 沢 社 中	野 沢 雅 世

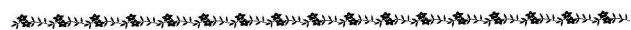
ナレーター 谷 口 祥 代

舞 台 協 力 和楽器専門
村 松 屋



●邦楽ふれあいフェスティバル運営委員会●

委 員 長	水 井 推 山
会 計	永 田 雅 秀
庶 務	島 寄 佐知恵



[事務局] 〒918-8069 福井市水越 1-115
TEL 0776-36-3968

水 井 推 山 方